蟹江北中学校　令和７年度学校評価のまとめ

（１）　はじめに

○　保護者、生徒、教員の回答は、全ての項目で肯定的な評価の割合が否定的な評価よりも高くなっておりよい傾向であった。特に、「学校生活を楽しく送ることができているか」「学校のルールや約束事を守って生活できているか」の質問において、保護者・生徒・教師ともに 90%以上が肯定的な評価をしている。この結果は、保護者・生徒・教員が三位一体となり、同じ目標を掲げて歩みを進めてきた証であると拝察する。今後も、生徒の生活の様子に目を配り、生徒一人一人が自己の可能性を最大限に発揮できるよう心がけていきたい。

（２）成果

○　１「学校生活を楽しく送ることができているか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに 90%と高い。保護者・生徒・教師ともに肯定的な評価の割合が高いのは、生徒にとって充実した学校生活を送ることができたからと考えられる。また、生徒が学校で感じている充足感が、家庭での会話や日々の表情を通して保護者の方に正確に伝播しているからであると考えられる。

○　２「学校生活で時間を守って行動することができているか」については、保護者・生徒・教員ともに肯定的な評価の割合が 80%以上と高い。「時間を守る」という基本的な生活習慣が、生徒一人一人の「規律ある生活」への誇りとして内面化され、集団生活における時間の重要性を深く自覚し、自律的に行動した証であると捉えられる。時間を尊ぶ精神は、全ての教育活動の基盤である。本結果に安住することなく、本校のよき伝統となるよう、今後も集団生活の中で時間を守るって行動することができるように継続的に取り組んでいきたい。

○　３「学校のルールや約束事を守って生活できているか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに 90%以上と高い。生徒に関しては、98%が肯定的な評価であった。これは、ルールや約束事を、単に「縛るもの」と捉えるのではなく、集団の安全と個人の権利を守るための大切なものとして、生徒が理解しているためではないかと考えられる。

○　５「時と場に応じた言葉遣いができているか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに 80%以上と高い。保護者・生徒・教師ともに肯定的な評価の割合が高いのは、時と場に応じた言葉遣いを意識することの大切さを実感していると考えられる。

○　６「挨拶や素直な返事ができているか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに 80%以上と高い。これは、学級・学年や生徒会、部活動での挨拶や返事に関する取り組みが形骸化せず、日常の習慣として根付いているからであると考えられる。

○　７「いじめや差別をされていないか」については、「されていない」「あまりされていない」と回答した生徒の割合が約 90%と高い。一方で、否定的な回答が一定数見られた。これは、生徒たちが日常の小さなトラブルや心理的な摩擦を素直に表現できている結果と受け止めている。なお、「まあまあされている」「されている」という生徒について、学級担任を中心とした丁寧な聞き取りとその内容を基に事実確認をし、支援・指導を行っている。あわせて、解決済みの事案も含め、人間関係等を注意深く見守りながら対応している。いじめは、「どの学校でも、どの学級でも起こり得る」という前提のもと、些細な兆候も見逃さないようにし、未然防止と早期解決に全力を注いでいく所存である。

○　８「いじめや差別をしていないか」については、「していない」「あまりしていない」と回答した割合が保護者・生徒・教師ともに約 90%と高い。なお、「まあまあしている」「している」という生徒について、７「いじめや差別をされていないか」と同様の対応をしている。

○　10「係、当番、委員会などの活動や自主的に人のためになる活動に進んで取り組めていますか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに 80%以上と高い。保護者・生徒・

教師ともに肯定的な評価の割合が高いのは、自主的に人のためになる活動に取り組むことが社会や学校生活の中で大切なことであることを実感していると考えられる。

○　13「学校行事や総合的な学習の時間などに真剣に取り組めているか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに85%以上と高い。保護者・生徒・教師ともに肯定的な評価の割合が高いのは、修学旅行や野外教室、職場体験や職場見学、学校祭などの行事やそれに伴う総合的な学習の時間の学習に対して、生徒が意欲的に取り組み、実践しようとする気持ちが高まっているからと考えられる。

○　14「道徳の授業を通して、よりよく生きようという気持ちをもつことができていたか」については、肯定的な評価の割合が保護者・生徒・教師ともに80%以上と高い。これは、「考え、議論する道徳」の授業に慣れ、生徒にとって切実な学びとなっている結果であると考えられる。

（３）課題

●　４「交通ルールや公共のマナーを守って生活できているか」については、保護者と生徒ともに肯定的な評価の割合が90%以上と高い。しかし、教師は肯定的な評価の割合が60%となり、保護者・生徒の捉えと教師の捉えに差が見られた。現状の登下校について、「自転車の並進」「広がっての歩行」等の情報を地域からいただくこともあり、教師が直接指導する機会もある。軽微で済んでいるが、自転車通学者と車の接触事故も起こっている。生徒全員が安全に登下校するために、教師と保護者が協力して生徒の交通ルール遵守とマナー向上の意識を高めていくことが急務である。

●　９「情報機器の利用において、使用時間の管理や情報モラルの遵守を意識して生活できているか」について、生徒の肯定的な評価の割合は90%と高い。しかし、保護者や教師の肯定的な評価の割合が約65%となり、生徒の捉えと保護者・教師の捉えに差が見られた。今後も、情報機器の適切な利用について、使用時間の管理や情報モラルの遵守を意識することができるように取組を継続的に行っていきたい。

●　11「授業や学習に対して主体的に学ぶ姿勢で取り組んでいるか」については、生徒と教師ともに肯定的な評価の割合が 80%以上と高い。しかし、保護者は肯定的な評価の割合が約 75%となり、生徒と教師の捉えと保護者の捉えに若干の差が見られた。生徒は授業内の共同学習やICT活用において高い意欲を実感している。今後も、授業で新たなことを知る喜び、学びの楽しさを生徒が体感することのできる授業づくりに取り組んでいきたい。

●　12「予習・復習や自主学習など、家庭での学習ができているか」については、生徒の肯定的な評価の割合は70%であった。しかし、肯定的な評価の割合は保護者が50%、教師が60%と、生徒の捉えに差が見られた。保護者は、生徒の家庭学習の取組の様子などから予習・復習や自主学習の取組の習慣が不足していると感じているのではないかと推察される。家庭学習を義務化するのではなく、授業での対話や発見の楽しさを最大限に感じさせ、「もっと知りたい」という内発的な動機付けを促し、生涯にわたって自ら学び続ける姿勢の土台作りに取り組みます。

●　15「進路選択等に意欲的に取り組み、自分の将来について前向きに考えたか」については、生徒と教師とも肯定的な評価の割合が70%以上であった。しかし、保護者の肯定的な評価の割合が約60%となり、生徒と教師の捉えと保護者の捉えに差が見られた。生徒の自己評価を各学年別に見ると、１・２年生での肯定的な評価の割合は約65%、３年生での肯定的な評価の割合は90%以上と、３年生になると肯定的な評価の割合が高くなっている。これは、これまでの進路指導が適切になされ、卒業後の進路の意識付けができた結果であると考えられる。一方、１・２年生での肯定的な回答が３年生よりも低いのは、「生き方」としてのキャリア教育が浸透しきれていないためであると考えられる。今後も各学年で進路指導を中心に将来の職業選択も視野に入れながら、生徒一人一人の希望や夢を大切にしたキャリア教育を推進し、生徒が自分の将来を考える力を高めていく支援をしていきたい。